

教育学演習Ⅱ

科目ナンバリング SEM-302

必修 2単位

佐藤 高樹

1. 授業の概要(ねらい)

[春期(前期)から継続]

春期に引き続き、教育学研究(日本教育史や道德教育)の蓄積に学ぶことにより、受講生各自が「教育を見る眼を養う」ことをねらいとして授業を進めていく。研究成果のレビューや、各学生の研究テーマの考察に重きを置くこととした。教職課程を履修している学生には自身の教育実習(学校体験活動)をふり返り、実践の省察とその成果報告を通して、明確な問題意識を形成してもらうことも考える。

各受講生が教育をめぐる専門的知見を十分に獲得し、「自分の専門は〇〇」という明確な認識を構築できるように、授業をコーディネートしていく。また、各受講生が自らの問題意識に依拠しつつ、自力で教育問題への洞察を深められるよう指導していく。

2. 授業の到達目標

- (1)「社会とのかかわりのなかでの教育」「歴史のなかでの教育」といった広い視点から、日本の教育の課題を捉えることができる。
- (2)専門分野の研究成果(著書や論文記事)の内容を的確に読み取ることができる。加えて、その論旨を他者にわかりやすく口頭で説明できる(レビューする力がある)。
- (3)先行研究の到達点と課題を理解し、それとの関連が明確な、自身独自の課題意識、分析視点をもつ。

3. 成績評価の方法および基準

授業参加度(報告準備、積極的な発言など 25%)、提出物(リアクション・ペーパー、レジュメ、課題論文55%)、および報告・プレゼンのパフォーマンス(20%)に基づいて総合的に判断する。

4. 教科書・参考文献

教科書

テキストは指定しない。春期に続き、関連する文献・論文・雑誌記事など検討する資料を、受講生の研究課題設定や考察の進捗状況をふまえて選定する。資料配布の準備は基本的に担当教員が行う。

5. 準備学修の内容

受講生には、担当資料についてそれぞれレジュメを作成し、発表してもらう。自身の担当箇所についてはもちろん、それ以外にも積極的に資料を「読む」作業を前提とした授業参加なくしては、上記のねらいは達成されない。授業外学修を通して構築した自分の見解を持ち寄りながら、授業に参加すること。

6. その他履修上の注意事項

この授業は「講義」ではなく「演習」である。学生の主体的な授業参加～調査・発表・討議～が中心となる。自らすすんでたくさんの関連文献を渉猟すること。充実した報告資料の作成への意欲、参加者に有益な学びをもたらす綿密な発表への姿勢を、本演習履修者には求めたい。

7. 授業内容

- 【第1回】 秋期イントロダクションー演習Ⅰでの学びをふり返るー
- 【第2回】 教育研究の方法について(1)ー教育方法学・カリキュラム論から学ぶー
- 【第3回】 教育研究の方法について(2)ー教科教育学を例にー
- 【第4回】 教育研究の方法について(3)ー道德教育を例にー
- 【第5回】 教育研究の方法について(4)ー教育史学を例にー
- 【第6回】 4年生「卒業研究」中間報告の実施と全体討議(1)
- 【第7回】 4年生「卒業研究」中間報告の実施と全体討議(2)
- 【第8回】 4年生「卒業研究」中間報告の実施と全体討議(3)
- 【第9回】 研究の進展に向けてー文献リスト・レビュー作成、先行研究批判についてー
- 【第10回】 実地研究の準備学習
- 【第11回】 実地研究ーフィールドワーク・教材開発ー
- 【第12回】 実地研究を終えてー活動報告ー
- 【第13回】 3年生による研究発表ー1年間の学びの総括ー
- 【第14回】 4年生による研究発表ー教育学部での学びの総括ー
- 【第15回】 まとめの討議と評価
(※受講生の人数や問題関心・要望に応じて、授業計画に変更を加えることがある。)